

第99話 火防通達 (1)

中山町 歴史散策

江戸に人口が集中しはじめた寛文の頃から、常に人々の関心事は火事になりました。江戸には、建て込んだ小さな集合住宅である長屋や商人町、武家屋敷などがあり、出火すれば多くの住居と財産を失うことになりました。このため、火伏せとして神仏に祈願することは古くから行われてきました。

慶安年間(1648~1652年)、幕府は火防の対策を全国に布達しましたが、この中の文言はそれぞれの土地・場所に適合するように加除訂正され、「火防札」となつて通達されました。

本町では、達磨寺村の筆筒に収められていた「火防札」もその一つであろうと考えられています。

その文言には次のような項目が含まれていました。

一、風強き日は、家を出ず火の用心のこと

一、路上にて塵埃燃やすべからず

一、二階で火の取扱いあるべからず

一、消し炭の取扱い入念たるべきこと

一、町中で花火打上ぐるべからず

一、風呂屋は、風強き日は禁止、夕刻過ぐれば入浴を禁ず

一、火持ち歩く仕事を禁ず

一、くわえさせる禁止のこと

このうち、「くわえさせる」については、宝永年間に禁止は解かれています。いずれも町中に火災をもたらす火元への厳重な注意書です。

特に、風の強い日の火の取扱いは、今日でも通用する事項で、路上の焚火、火を携行する商売、風呂屋の営業にも一定の規則が定められています。

また、町中の打上げ花火、くわえさせるの項目は、町人の暮らしの一面がうかがえるものとなっています。

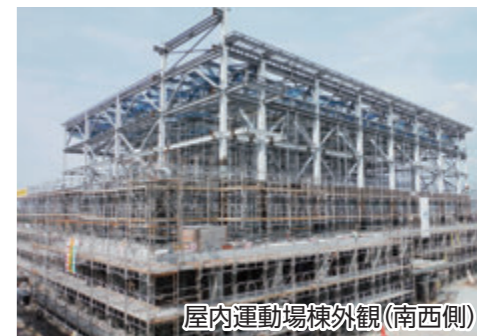
※参考 中山町史 中巻 第9章第3節 火災と防災対策

中山中学校改築工事、順調に進んでいます

昨年7月から始まった中山中学校の改築工事は、今年12月の完成に向け順調に進んでいます。

5月末現在、屋内運動場棟については2・3階部分の配筋・型枠工事が、校舎棟については屋根部分の配筋工事が行われています。

※改築工事の詳細な進捗状況については、町公式ホームページ内で随時更新していますので、ご覧ください。



屋内運動場棟外観(南西側)



奥(東側)が屋内運動場棟、手前(西側)が校舎棟です。

ふるさと寄附金ありがとうございます

中山町を町内外から見守り、応援してくださっている方々から「ふるさと寄附」として寄せられた寄附金について、寄附の件数や総額、使いみちなどをご紹介します。

お寄せいただいた寄附金は、中山町ふるさと応援基金に積立て、町の将来像「ふれあいと絆 緑豊かな輝くふるさと なかやま」実現のため、各事業で有効に活用させていただきます。

使いみち一覧	平成26年度寄附受領実績	
	件数(件)	金額(円)
子育てに関する事業	185	2,472,000
健康・福祉に関する事業	90	1,387,000
教育・文化に関する事業	36	352,000
産業の振興に関する事業	56	547,000
生活の安全・安心に関する事業	17	172,000
使途指定なし	736	7,481,000
計	1,120	12,411,000

※お問い合わせ先 総務企画課企画財政G ☎662-4271

Time Slip vol.25

今から24年前… 1991年(平成3年)

『村田投手200勝達成を記念して…』

平成元年5月13日、山形県野球場(現 庄内銀行・日新製菓スタジアム)にて開催された日本ハムファイターズ対ロッテオリオンズ戦で、ロッテ先発の村田兆治投手が完投でプロ通算200勝を達成しました。

町は、村田投手の活躍を後世に伝えるとともに、中山町が村田投手が200勝をあげた場所としてアピールしようと、村田投手の「マサカリ投法」のフォームをモチーフにした記念プレートを作成。平成3年2月に、球場の正面に設置しました。

村田投手からは、「私にとつて中山町は生涯忘れられない場所です。記念プレートの建立に對し心から感謝しております」とメッセージをいただき、24年経過した現在も、町の誇りとして大切にされています。



平成3年3月10日号より



「村田投手記念プレート」